

研究分野のキーワード：美術教育史，図画，手工（工作），黒板画・略画，児童画，情操

研究紹介

日本の美術教育の歴史を研究しています。

そもそも「美術」という用語は、明治初期に大鳥圭介という人が「Fine Arts」の訳語として造ったといわれています。当初は芸術（この語のルーツは中国のようです）全般を指し、音楽や文芸も美術でしたが、今は「Visual Arts」即ち、絵画や彫刻、デザイン、工芸などを指して使われます。と同時に、中学校の教科名ともなっています。

小学校では、「図画工作」科です。では「高校は？」と問えば、皆さんは「美術」と答えるでしょう。ただし高校の美術科は「科目」で、教科名は「芸術」です。「芸術」科に「音楽」「美術」「書道」がありますが、ほかに「工芸」という科目があるのを知っていますか。残念ながら、愛知県内で「工芸」を実施している高校はないようです。

美術に関する教科・科目の名称は、図画工作、美術、芸術科の美術・工芸とバラバラです。これは美術教育史に由来しているためで、「図画工作」が元々の教科名を残しています。

「図画工作」の「図画」は、明治 5(1872)年の学制発布の時、「罫画」「画学」として始まりました。これが明治 14(1881)年に図画と改称されて、現在まで使われているのです。一方の「工作」は、明治 19(1886)年に「手工」として始まりました。今の技術科に近い内容で、この手工が、昭和 16年(1941)年に工作と名を変えました。

図画と手工（工作）はともに実技科目であり、似たところがあるから統合しようという意見が古くからありましたが、まとまらず、そのままでした。しかし太平洋戦争後、日本を統治した連合国総司令部（GHQ）の民間情報教育局（CIE）に、図画と工作は統合するよう指示され、教科名について図画の先生は「美術」にしようと言い、工作の先生は「造形」を主張しました。どちらも譲らず、とりあえず、2つをくっつけて「図画工作」とすることになりました。このとき中学校も高校も図画工作になったのですが、高校では昭和 31(1956)年の教育改革で戦前の教科科目制に戻すことになり、以前の教科・科目「芸能科図画、工作」を模して現在の芸術科美術、工芸になりました。一方、中学校では昭和 33(1958)年に技術科ができたとき、工作の内容の多くが技術に移設されて美術科になったのでした。

研究紹介の筈が、つい、教科名の歴史の講義になってしまいました。

最後に、私自身の研究の一端を、最近書いた学会論文のタイトルを掲げることで察していただこうと思います。「我国児童画研究の歴史に関する一考察」「用語としての『児童画』の確定に関する一考察」、「図画・手工教育の軽視・無用視に関する歴史的研究—明治期図画」、「日本におけるクレヨンの普及に関する研究」などがそれです。美術教育に関する歴史を研究していることは判って頂けると思います。